

後ろ向き観察研究用 本院患者さんへの情報公開用文書 (ホームページ、掲示用周知文書)

表題:

急性A型大動脈解離に対する楕円フーリエ解析法を用いた形態解析・偽腔消失予測の検討
についてのご説明

● はじめに

急性A型解離は生命を脅かす疾患であり、約65%の方が治療を受ける前に亡くなってしま病気です。手術は上行大動脈または上行大動脈＋弓部大動脈を人工血管に置換する手術で、下行大動脈以遠には偽腔(大動脈が解離したことにより形成された腔)が残ります。現在手術成績は向上し、手術まで辿り着けた場合は約90%の患者さんは退院できるようになります。ただ手術後遠隔期に問題となるのが下行大動脈以遠の残存した偽腔が拡大し、破裂するリスクが増えてくることが挙げられます。再治療が必要になることは約10%で、部位によっては非常に複雑で侵襲の高い手術となります。

大動脈解離術直後のCTから残存した偽腔が今後どのような推移を示すのかを予測できれば、複雑な手術が必要となる前に別のアプローチで治療介入できるのではないかと考えております。

● 研究対象を説明

第二外科及び心臓血管外科において2007年4月1日から2016年12月31日まで急性A型大動脈解離を発症され手術を受けられた方を対象にしています。

● 研究内容、患者さんに日常診療以外の余分な負担や経費が生じないことなどを説明。

当科で入院時及び遠隔期のCT画像を使って、偽腔の予後を調べます。拡大する患者さんとし
ない患者さんを比較し、CT上での大動脈の形状が偽腔拡大にどう関わっているのか、考察しま
す。なお、この研究を行うことで患者さんに通常診療以外の余分な負担は生じません。

● 患者さんの個人情報の管理について

本研究では個人情報の漏洩を防ぐため、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、デ
ータファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。本研究の実施過程及びその結果の公
表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

● 利用する情報

カルテ情報:診断名、年齢、性別、既往歴、手術記録
画像情報 :CT画像

● 患者さんがこの研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2007年4月1日から2016年12月31日までの間で、本院で急性A型大動脈解離により手術を受
けられた患者さんの中で、この研究に診療データを提供したくない方は、下記までご連絡下
さい。ただし、あなたからご連絡をいただいた時点で既に研究結果が論文などに公表されてい
る場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果などからあなたに関するデー
タを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなります。

● 研究期間

病院長承認日 から平成30年03月31日まで

● 予定症例数

当院50症例(全体100症例)

● 医学上の貢献

研究成果は急性A型大動脈解離を発症された患者さんに対する現在の治療プロトコルを見直すきっかけとなり、患者さんの治療と健康に貢献できます。

● 研究組織

札幌医科大学 心臓血管外科学講座

札幌市中央区南1条西16丁目

所属 心臓血管外科学講座

診療科 心臓血管外科

研究責任者;准教授 伊藤 寿朗

担当者;診療医 渡邊 俊貴

連絡先 平日Tel(011)-611-2111 内線33120(教室)

休日、時間外 内線33210(5階北病棟看護室)